



4月

部屋

5

花筏

23

一本桜

35

長屋の花見

47

5月

時鳥

61

杜若

71

青嵐

89

6月

五月闇

99

水たまり

111

夏越の祓

119

雨夜の客

129

はじめてのひとり暮らし。

大学のある地方都市で、

新築四階建ての建物。

しかも二階の角部屋だ。

びんぼーん

玄関チャイムが鳴った。

防犯のため、

全室のインターホンにカメラがついている。

そこには若い女性が映っていた。

「どちら様ですか？」

「隣の者です。」

引越しのご挨拶をいただいて……」

ああ、そうだった。

不動産屋さんは、

今どきは引越しの挨拶をしない方が多い、

と言っていたけれど、

「お隣さんへくらいにはご挨拶をしないさうい

と母に言われて、引越しの当日、

挨拶に行った。

留守だったので、

メモといっしょに紙袋をドアノブにかけておいた。
ドアを開ける。

「すみません。お留守だったので、勝手に」

「いえ、こちらこそ。」

「丁寧（ていねい）にありがとうございました。」

「学生さんですか？」

「そうです」

「よろしくお願いします」

簡単な挨拶（あいさつ）を交（か）わし、ドアを閉めた。

いい人みたいで少しホッとした。

